



Photo of 1981 : Walter Arosio & Tinin Brizio



1981年エルバ大会は、ジュニアトロフィ、ワールドトロフィともにイタリアチームが獲得したのだった。



Marcello Grigorov(マルチェロ・グリゴロフ)さんは、もちろん自らもエンデュロの愛好家。バンケル(ロータリー)エンジンのハーキュレスを乗りこなす! 息子のロレンツォ君(左)も時々、一緒にライディング。ロレンツォ君は、フェラーリのメカニックとして修業中、現在、日本の専門学校に在籍しているのだ。



Parc Ferme エルバ島の3日間競技

Text : Hisashi Haruki
The Classic Enduro ITDE2015 Isola d' Elba revival
International Three-Days Enduro

SIX DAYS 1981

エルバ島という名前は聞いたことがあっても、ではイタリアのどのあたりにあるのか、ということまでは考えたことがなかった。調べると、イタリアの西海岸とコルシカ島(フランス領)の間。本土からわずか20kmしか離れていない。周囲150kmほどの案外小さな島。人口は3万人ほど。行政区分としてはトスカナ州に属している。ちょっと古いライダーならば、1980年代のACERBISのヒット商品「ELBA HEAD LIGHT」を思い出すのではないだろうか。そうなのだ、エルバライトこそは、1981年にこの地で開催された6日間エンデュロ、ISDEエルバ大会に因んだ製品だったのである。

そのエルバ島で、今年、2015年10月に、1981年大会を回顧するイベントを開催するという報せが届いた。その名も「ザ・クラシックエンデュロレース インターナショナル3デイズエンデュロ・エルバ島大会」という。連絡をくれたのは、ISDT1968、ISDT1974など、6日間エンデュロの貴重な記録を集め編集・出版しているMGパブリッシングの代表、マルチェロ・グリゴロフさんだった。彼が出版している本を、BIGTANKとして、読者のみなさんにお声掛けをし、共同購入をしている関係でのお付

き合いだが、ぼくが6日間競技のカルチャーに強い興味を持っていることを知ってくれていて、そのうえでのお願いというわけだ。

グリゴロフさんは、スイスのルガーノ出身で、会社もそこにある。ルガーノはミラノから60km。スイスの中のイタリア語文化圏で、彼のライフスタイルとしてのエンデュロは、北イタリアにホームを置いているのである。

CLASSIC ENDURO

クラシックエンデュロ。ということで、1986年以前に製造されたモーターサイクルが参加の対象とされる。競技は3日間。初日は、ごく短いルート走行と、スペシャルテストが1つ、200メートルの加速テスト(1985年大会まで、毎日ゴール手前でやられていたもの)をこなし、30分のワークタイムの後パルクフェルメへ入れ、夜はウェルカムパーティ。2日目は、1周2時間ほどのルートを3周。スペシャルテストは1ヶ所、やはり最後に200m加速テスト。3日目は2時間のルートを1周、テスト1つ、加速テスト1つで午前中に競技は終了。午後はアワードセレモニーが行われる。全体として奇をてらわず、6日間競技、それも1981年当時の姿を

再現し、ただクラシックモーターサイクルのコンディションを考慮してボリュームは小さいものとしている。300名のエントリー受付を予定しているが、現在すでにプレレジストレーション希望のライダーが100名を超えているという。多くはイタリア。続いてイギリス、ドイツからの参加が多いと見込まれている。

INFORMATION

日程は10月16、17、18日。前日に受付・車検が行われる。イタリア協会FMIと、FIMヨーロッパの公認大会となり、日本から参加の場合は、FIMエンデュロ国際ライセンスの取得が必要となる。また、競技としての参加のほか「ジェントルマンクラス」として、気軽に参加できるソフトなクラスも用意されている。エントリーのオープンは3月の予定。このイベントはハルキも現地に取材に行く予定。もし、参加してみたいと思う方がいたら、春木まで問い合わせいただいてもOK! または下記ウェブサイトをチェック。

www.itde2015.com